

2. 不織布の業界再編成と環境配慮型製品

2-1 不織布の市場動向と業界再編成

2-1-1 不織布の需要縮小とその要因

(1) ベビー用紙おむつの生産減少

不織布の国内需要量は2018年の53.1万トン进行ピークに減少し、23年には44.9万トンまで縮小した。24年はわずかに増加し、需要の後退に歯止めがかかった。国内需要が減少した最大の要因は、紙おむつの生産減少である。大人用紙おむつの生産量は増加しているが、ベビー用紙おむつは17年の52.6万トンが24年は25.8万トンと半分に縮小している。不織布にとって紙おむつは最大の需要分野であり、24年における紙おむつ用不織布の需要量は15.4万トンで内需全体の1/3を占めている。ベビー用紙おむつの不織布需要量は17年の11.4万トンが24年は5.7万トンへ減少しており、大人用紙おむつの不織布需要量は8.3万トン(17年)から9.7万トン(24年)へ増加しているが、ベビー用の減少幅があまりにも大きい。

ベビー用紙おむつの生産量が減少した要因として国内の少子化があげられるが、最も大きく影響したのは輸出の減少である。紙おむつの輸出量は17年の29.8万トンが24年は7.8万トンとなり、7年間で22万トンも減少している。輸出されている紙おむつには大人用も含まれているとみられるが、その殆どはベビー用である。国別では中国向けが最も多く、17年の輸出量は22.0万トンであったが、24年は1.5万トンに縮小した。中国では紙おむつメーカーの成長が著しく、ベビー用紙おむつの品質も向上したことから需要は安価な中国製品へシフトしていった。日本製のベビー用紙おむつは競争力を失い、日本からの輸出が減少しただけではなく、花王と大王製紙は中国におけるベビー用紙おむつの生産撤退を余儀なくされた。紙おむつの生産減少は不織布メーカーに大きな影響

を与え、23年には三井化学と旭化成が不織布事業を統合し、24年にはJNCが国内での短繊維不織布の生産を停止した。また、東レも長繊維不織布の生産体制を見直すなど、ベビー用紙おむつの生産減少は各社の不織布事業に大きく影響した。

(2) 自動車の認証不正と出荷停止

自動車にはカーペット、天井材、吸音材、フィルター、シート資材、タフテッド基布、ホットメルト接着シートなど様々な不織布製品が使用されており、自動車は不織布にとって主力用途の一つである。不織布の需要量は自動車の生産に連動し、20～22年は新型コロナの影響で自動車の生産量が800万台前後に低迷していた。しかし23年は生産量が900万台に達し、前年比14.9%の伸び率を示した。24年は823万台にとどまり、8.5%の減少となった。このため自動車用不織布の生産量も、23年の42,415トンが24年は38,802トンで8.5%の減少となった。

24年に自動車の生産量が減少したのは、自動車メーカーの認証不正による出荷停止が原因である。23年12月にダイハツが型式指定の認証不正で全工場が稼働を停止し、24年5月に稼働を再開したものの、10月に再び複数車種の生産が停止し、新型車の開発も一時停止した。さらに24年6月にはトヨタ、本田、マツダ、スズキ、ヤマハ発動機が型式指定申請で不正のあったことが判明し、3社6車種が出荷停止となった。このため24年は自動車生産量が減少し、不織布だけでなくプラスチック、金属など様々な資材の需要が減少した。

(3) 新型コロナの終息と不織布製品

20年に起きた新型コロナのパンデミックは、マスク、アイソレーションガウン、除菌用ウェットティッシュなど、感染対策に使用される不織布製品の需要を爆発的に拡大させた。しかし医療・

衛材用不織布の生産量は19年の7.8万トンが20年は7.9万トン、21年は7.3万トン、22年は7.1万トンと推移しており、新型コロナの影響は殆ど反映されていない。医療・衛材用では紙おむつ向けの生産量が大きく減少したため、他の用途の増加分が相殺されたとみられるが、感染対策で需要が増大したのは国産の製品ではなく輸入品であった。日本衛生材料工業連合会(日衛連)の調べによるマスクの生産量(輸入品を含む)は、18年度55億枚、19年度65億枚、20年度130億枚、21年度163億枚、22年度85億枚、23年度57億枚と推移しているが、生産量の73～80%が輸入品である。マスクの国内生産も増加したが、需要の大部分は輸入マスクで占められた。

アイソレーションガウンは不織布製の簡易ガウンであるが、新型コロナの感染拡大時期は供給不足に陥り、政府支援による生産強化が進められた。アイソレーションガウンの通常時の需要規模は年間700万～900万枚程度とされているが、新型コロナのパンデミックでは1億枚を超える規模に拡大した。20年には不織布ガウンの国内生産が1億枚程度に増大したとみられるが、安価な輸入品が増加したことによって国内生産は減少していった。貿易統計には21年から不織布ガウンの輸入量が明記されており、それによると21年7,186万枚、22年10,146万枚、23年9,321万枚、24年4,713万枚と推移している。

除菌用ウェットティッシュも新型コロナの感染拡大で需要が急増した不織布製品である。日衛連の調べによる除菌用ウェットティッシュの生産量は、15年度に107百万個になったあと、18年度234百万個、19年度293百万個、20年度515百万個と増加した。しかし21年度は371百万個に減少し、22年度も387万個にとどまり、23年度は499百万個に増加している。生産量の減少は輸入品の増加によるものとみられる。貿易統計による輸入量は19年の1.8